

その輪に「嶋本昭三の Networking は歴史化されつつあるが」等々すばらしい言葉がチリバメラレである。そして次々に「あ」というヒラガナの文字を切抜いてはった「あ」か、そのまま切手をはって私の手元に着いた。その「あ」には強烈な色彩がほどこされ、いたるところに「あ」の字が埋めこんである。タマタマ別の取材で我家にきていた美術ジャーナリストの田中幸人先生が、「桜井さん、そこに掛けてあるのはなんですか」「これがお話した嶋本先生のメールアートです」といって、いきさつをエンエンと話した。そして、樹根に切抜いたものが送ってきた。素材はどれも単なるダンボールであるが、ひとたび嶋本先生の手にかかるとサンゼンと輝く作品にでき上がるのである。作品については、もっと適切な方法が必要で、私は機会があれば嶋本昭三の展覧会を美術館でやるのが最も良い方法であると思う。しかし、おそかれ早かれ嶋本昭三展は世界中で展開されるべきことはよく判る。かかるジャンルの美術は存在したことがないのである。これも昨夏、嶋本先生とその仲間たちと一緒にメシを食べながら聞いたのであるが、甲子園口の郵便局は、変なものが着くと嶋本先生宅に配達し、何処までか忘れたが郵便物利用拡大策として嶋本先生を呼んで研究し、現在、お堅いことで有名な日本郵便局が、いかにしたら「郵便物を芸術化しているエコールド、または AU」に理解を示すための勉強をし、いまや大体生きた大さえも方法をおもしろくすれば送れるようになったとか世界の何処をさがしても、全然今までの郵便局とは態度が異り、ユーモアがあり、自らアートメールの拡大策として郵便局自体をキャンパス化して欲しいと願い出るといった不思議な現象が嶋本先生の AU ネットワーク附近の郵便局で発生して、もう一つの、いままで何処も、いままで誰も考えなかった現象が出現したのである。まずはポスト・モダンを称するなら、この現象、あるいは郵便法をトンネル化したアートメールを通過洗礼しなければ、モダンと言うことはできぬ。もはや、私ふうにいえば勝負はついているのである。現代美術の最先端がアートメールとなるのである。その画家が、他の、国家サイドである巨大な郵便業務をも運動のメディアとして取り込んだのは、美術にとっては、まさに革命である。このことは、いかに高く評価しても、しすぎることはない。そして嶋本先生は、この巨大な制度を楽々と使い切っているのである。

と同時に嶋本先生は自らの頭を解放した。嶋本先生の歩いてゆくところが画廊であり、美術館である。まさに前衛美術のすべてが頭に書かれ、あるいは映つされ、それは広島、米ソニ大国の融和への展開の場所として、嶋本先生は出現してきたのである。彼、嶋本先生は決して政治的作家ではないにもかかわらず、結果的に最大の、どの政治家より平和を実現できる作家として、広島、長崎、米ソへと頭を通じてネットワークの網は解放されていっている。嶋本先生自身がすでに世界の解放を願って歩き回っているのである。いま驚くべきことに具体、AU をとおして嶋本先生は嶋本個人に閉じこもることなく、開放・平和・世界へと嶋本先生の姿は明確になり、誰の目にもいまや嶋本先生の芸術は見えてきた。だから、いまでこそ嶋本先生の存在が偉大具体の今日の方向性を決定し、日本から世限へと理解されたのだと、まずは誰の目にも判る筈である。